

XVI. 参考文献

- 青山清英 (2017) ジュニア選手の試合計画. コーチング学への招待. 大修館書店、東京、pp.242-245, 276-291.
- Bompa, T. and Carrera, M. (2005) *Periodization training for sports*. Second edition. Human Kinetics, Champaign.
- Cook, G., (監訳) 中丸宏二、小山貴之、相澤純也、新田収 (2014) *ムーブメント ファンクショナルムーブメントシステム 動作のスクリーニング、アセスメント、修正ストラテジー*. ナップ、東京.
- 帖佐寛章、佐々木秀幸、大西暁志、宮下桂治、沢木啓祐 (1992) *練習法百科 陸上競技*. 大修館書店、東京.
- ダニエルズ, ジャック. (2012) *ダニエルズのランニング・フォーミュラ*. 篠原美穂訳、前河洋一監修、ベースボールマガジン社、東京.
- Ehlenz, H., Grosser, M. and Zimmermann, E. (1985) *Krafttraining (2. Aufl.)*. blv sportwissen, p.12.
- González-Alonso, J., Teller, C., Andersen, S.L., Jensen, F.B., Hyldig, T. and Nielsen, B. (1985) Influence of body temperature on the development of fatigue during prolonged exercise in the heat. *J. Appl. Physiol.* 86(3): 1032-1039.
- ハルトマン, C., ミノウ, H.J., ゼンフ, G. (翻訳) 高橋日出二、綿引勝美、上田憲嗣 (2014) *金メダルへの道しるべ 初歩の動作学 ートレーニング学*. コレスポ、千葉.
- 長谷川裕 (2017) *Velocity Based Training の理論と実践*. エスアンドシー株式会社、京都.
- 入江仁之 (2019) *OODA ループ思考 [入門] -日本人のための世界最速思考マニュアル*, ダイヤモンド社、東京.
- 石井直方 (2001) *筋と筋力の科学②・筋を鍛える*, 山海堂、東京. p. 63.
- 伊藤雅充 (2017) *コーチとコーチング. コーチング学への招待*. 大修館書店、東京、pp.12-25.
- 加藤要崇 (2020) *医者が教えるサウナの教科書*, ダイヤモンド社、東京.
- 勝原竜太、(監修) 朝倉全紀 (2016) *ムーブメントスキルを高める*. ブックハウス・エイチディ、東京.
- 勝田隆、吉田清司、久木留毅 (2005) *競技者育成のための指導法*. 公認スポーツ指導者養成テキスト. 座位大法 人日本体育協会、東京、pp.147-172.
- 河合季信 (2017) *組織・クラブのマネジメント. コーチング学への招待*. 大修館書店、東京、pp.304-313.
- 毎日新聞 (2017) 9月11日記事 桐生 最高速度の比較 日本陸連科学委員会提供.
- Mujika, I. (2017) *テーパリング&ピーキング 最適なパフォーマンスのために*. ブックハウス・エイチディ、東京.
- 村木征人 (1994) *スポーツ・トレーニング理論*. ブックハウス・エイチディ、東京.
- 中垣浩平、尾野藤直樹 (2014) 簡易的なトレーニング定量法の有用性：カヌースプリントナショナルチームのロンドンオリンピックに向けたトレーニングを対象として. *体育学研究*. 59(1), 283-295.
- 中村真理子、内藤貴司、星川雅子、中村大輔、林聡太郎 (2020) *競技者のための暑熱対策ガイドブック【実践編】*. 独立行政法人日本スポーツ振興センター ハイパフォーマンススポーツセンター 国立スポーツ科学センター、東京.
- 日本ウエイトリフティング協会 (2015) *ウエイトリフティング 指導教本 2015*.
- 岡達生 (2017) *コーチ制度と組織. コーチング学への招待*. 大修館書店、東京、pp.26-32.
- ラドクリフ, J.C. and ファレンチノス, R.C. (1987) *プライオメトリックス*. ベースボール・マガジン社、東京.
- 齋藤孝 (2018) *図解 孫子の兵法—丸くおさめる戦略思考 (図解シリーズ)*. ウェッジ、東京.
- 坂井和明 (2019) *ゲームにおける局面 (時間構造)*. 球技のコーチング学. 大修館書店、東京、pp. 34-42.
- 嶋田出雲 (1998) *チームづくり論. スポーツのコーチング. スポーツ・コーチ学—ストリーム理論とトリー理論による勝利への道—*. 不味堂出版、東京、pp. 265-310.

- 曾凡輝, 王路徳, 邢文華 (1998) スポーツタレントの科学的選抜. 道和書院, 東京.
- Stiehler, G., Konzag, I. und Döbler, H. (1988) Antizipatives Abwehrspiel (2. Auflage). Philippka-Verlag. S. 9-23.
- 高松薫 (2019) 体カトレーニング論. 大修館書店、東京.
- 高野進 (1998) (DVD) RUNNING FASTER 高野進のニュー・スプリンティング・コンセプト 第2巻 トレーニング編. ジャパンライム、東京.
- 高野進 (2008) 陸上 短距離走パーフェクトマスター (スポーツ・ステップアップ DVD シリーズ) . 新星出版社、東京.
- 武田鏡村 (2002) 図解 五輪書. 東洋経済新報社, 東京.
- 谷川聡 (2017) タレント発掘・育成・トランスファー. コーチング学への招待. 大修館書店、東京、pp.314-328.
- 田内敏男 (1988) ストレングス・ブックI、ブックハウス・エイチディ、東京.
- 手塚一志 (2011) DVD 付 三振をとる!! 球速アップ・メソッド. 高橋書店、東京.
- 富田和成 (2018) 図解 鬼速 PDCA、クロスメディア・パブリッシング、東京.
- 辻秀一 (2000) スラムダンクの勝利学. 集英社、東京.
- 吉田進 (2002) パワーリフティング入門、体育とスポーツ出版社、東京.
- 関子浩二 (2003) スポーツ練習による動きが変容する要因 - 体力要因と技術要因に関する相互関係. バイオメカニクス研究, 7(4): 303-312.
- 関子浩二 (2013) トレーニング論②II/トレーニング理論と方法論. 公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目 III. 日本体育協会, pp.104-117.
- 関子浩二 (2014) コーチングモデルと体育系大学で行うべき一般コーチング学のないよう. コーチング学研究, 27(2): 149-161.
- 関子浩二 (2016) パフォーマンスの構造を理解しトレーニングサイクルを循環させる - 特集: パフォーマンスを評価する -. コーチングクリニック, 30(6): 4-7.